

No.	市民意見の分類	個別意見	市の今後の取組の考え方
1	○市民への意識啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「死なないこと、ケガをしないことが大切」という言葉を、キャッチフレーズとして市民全体で広める、共有する。</li> <li>・エリアメールを使った意識啓発をする（毎月1日、年に1回など、意識を高めるようなメールを配信。携帯電話会社や機種によってエリアメールが届かない人のチェックにも）。</li> <li>・黄色いハンカチ全戸支給制度。被災時の安全確認結果を掲示するハンカチ（のようなもの）を市が全戸支給することで、市民全体で防災への意識を高めたい。また、「防災」という言葉ではなく「黄色いハンカチ」という別のキーワードにすることで市民が取り組みやすい工夫をしたい。</li> <li>・今回の豪雨のような災害があった直後に、地域ごとの具体的な被害の内容をチラシや広報さっぽろなどで知らせ、防災に関心を持ってもらう。</li> <li>・個人の意識が大事。防災に限らず、環境など大きな視点から市民が札幌の事を広く考えていくような意識啓発が大事。</li> <li>・自助の意識を高めるため、防災の取組や課題を市民が話し合う全市的な意見交流の場を、継続的に設ける。</li> </ul>	<p>市民への防災に関する意識啓発を進めていくにあたっては、地域における自助及び共助の取組を効果的に推進することが重要です。</p> <p>このため、分かりやすく、市民ニーズ等を反映させた取組や、地域の取組に参考となる先進事例の紹介等の情報提供を行っていく必要があります。</p> <p>これらの取組については、これまで出前講座や各種訓練、研修等のほか、広報さっぽろへの特集記事の掲載等により行ってきましたが、今後においても地域へのより効果的な取組を検討するとともに、自助及び共助の醸成へと繋がるような有効な支援方法についても検討していきます。</p>
2	○防災関連資料を効果的に配布・活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関するパンフレットを、普段の生活で足を運ぶようなイベントやショッピングセンターに置くなど配布場所を工夫し、もっと市民の手に渡るようにする。</li> <li>・自助の意識を高めるために、防災マップやマニュアルを全市民に届ける（全戸配布や広報さっぽろの活用など）。</li> <li>・「見る」から「使える」資料に。防災の資料を配るだけではダメ。町会役員対象ではなく、市民一人ひとりを対象とした、行政の資料を使いこなすための防災講座や出前説明会を実施する。</li> </ul>	<p>パンフレットの配架場所については、札幌市とまちづくりパートナー協定を締結している企業店舗等での配架など、より多くの市民の目に留まるような取組を検討していきます。</p> <p>また、避難場所の情報や災害時又は災害が発生するおそれがある場合に市民が執るべき避難行動を自ら作成し活用できる個別行動シート等から成るパンフレットを広報さっぽろ4月号（綴じ込み）で全戸配布しました。</p>
3	○自助の備えを促すための支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災グッズを市民が購入しやすい仕組みをつくる。地域では、町内会などを通して注文シートをまわす。</li> <li>・自助の責任範囲はどこまでか、自助の最低限の備えとして、必要な物品などの情報提供が市からほしい。</li> </ul>	<p>これまで出前講座や各種訓練、研修、パンフレット等において、過去の災害から指摘されてきた自助の重要性や家庭での備蓄の必要性等を啓発してきました。</p> <p>今後においてもこれらを有効に活用し、自助の重要性や災害時に市民が執るべき行動等について、効果的に市民周知を行っていきます。</p>
4	○子ども達への防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもたちへの防災意識を高める取組をする。教育活動の一環として、授業で行う。地域では人気アニメと防災DVDの両方の上映会をする。</li> <li>②防災教材を学校で定期的に使ってもらうようにしたり、地域の防災訓練に子どもと一緒に取り組むなど、子どもたちに防災に興味を持ってもらえる工夫が必要。</li> </ul>	<p>現在、小中学校に対し防災教育教材を配布し、授業などで活用しておりますが、教材をより効果的なものとするために、担当部局と調整を図りながら、その内容や活用方法について調査・研究を行っていきます。</p>

No.	市民意見の分類	個別意見	市の今後の取組の考え方
5	○若い世代に向けた、地域の防災活動への関心を高める取組	<p>①共助の意識を高めるため、日頃のつながりづくりが大切。例えば子どもと親が参加する行事を地域で開き、若い世代に意識を持ってもらうなどの取組も考えられる。こうした地域の活動に対して、市ができる支援メニューを示してほしい。</p> <p>②出前講座をもっとPRして利用を促す。例えば、10分程度の分かりやすいメニュー（防災コント、寸劇など）を設定し、若い人や子ども達にも興味を持ってもらう。</p> <p>③「防災ガール」などの、防災の問題に関心が低い世代が「自分ごと」として取り組むことができる様な面白いアイデアや取組を市が支援する。</p>	<p>現在、防災週間、土砂災害防止月間等の訓練、研修の機会を捉え、若い世代のみならず幅広い世代に対し、地域防災活動のPR等を行っております。</p> <p>今後も、PR等がより有効となるようその方法等を検討するとともに、地域が参考となる先進事例等をホームページで紹介するなど、地域における取組への支援についても、併せて検討していきます。</p>
6	○災害時の市と地域間の情報伝達方法の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市から地域（地域組織や携帯端末など）への情報の流れを明確にし、災害時の細かな情報発信ができるようにする（食料や水の届く時期やライフラインの情報など、きめ細かな情報が重要で、安心にも繋がる）。</li> <li>・地域の情報伝達体制をつくるためにも、市の防災専門課をつくり、情報発信をしっかりとってもらう。</li> <li>・避難した家に旗を立てるなど、災害時の地域や個人の状況を市に伝える工夫が必要。</li> </ul>	<p>市民の方への情報提供方法については、これまでもより効果的、効率的な手法に取り組んできたところですが、今後も引き続き、より効果的な情報提供のあり方を検討していきます。</p>
7	○避難訓練に多くの市民や様々な機関を巻き込む取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌全体で行う訓練の日を設ける。「190万防災祭り」。平日に開催し学校や企業も巻き込む。</li> <li>・全員が避難所訓練に参加できるよう、市が音頭をとって、強化週間・月間を設け、市内の様々な組織が訓練を行い、参加しやすい時間帯、場所に参加できるようにする。</li> <li>・市から地域への情報の流し方、地域で情報を受けた後の動き方について、実際に訓練し動けるように備える。</li> </ul>	<p>災害時に迅速・的確な対応と行動等をとるためには、日頃からの訓練、研修が重要です。このため、今年度から避難場所運営に関する研修の実施回数を増加するとともに市民の参加を取り入れました。</p> <p>今後も幅広く市民が参加できるよう、訓練、研修のあり方等について、検討していきます。</p> <p>また、地震時の安全行動の習得を目的に北海道が主催するシェイクアウトへの参加及び防災の日における緊急速報メールの伝達訓練の実施についても、併せて検討していきます。</p>
8	○危険箇所や避難場所の周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住んでいる地域の危険性を、もっと具体的に情報提供をして、実情に合ったアドバイスをする。</li> <li>・避難場所の周知が大切。観光客にもわかりやすいようインフォメーションボードにも入れる。地域でも老人クラブの会合などを学校で開いて周知する。</li> </ul>	<p>避難場所に関する情報等については、広報さっぽろ4月号（綴じ込み）により周知を行いました。</p> <p>また、各種ハザードマップについては、各区役所等で配架しているほか、本市ホームページに掲載することにより周知をしています。</p> <p>市民に対し、より利便性が高くかつわかりやすくするため、今後は、配架場所やホームページでの掲載の仕方等、周知方法等について検討していきます。</p>
9	○防災の取組を促す条例や制度づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条例など防災の取組への強制力も必要。また、優れた取り組みをした企業等へのインセンティブを与える制度づくりを考える。</li> </ul>	<p>本市が目指す防災協働社会の主体となる町内会、企業、N P O など様々な地域団体や個人のうち、市民の模範となる防災活動をしたと認められる団体や個人を対象に、札幌市防災表彰制度を設けております。</p> <p>今後とも本制度を活用し、その内容をP Rするとともに、各団体等の取組をホームページで紹介するなど、市民や地域団体の活動を促すような取組を進めていきます。</p>



No.	市民意見の分類	個別意見	市の今後の取組の考え方
1	○誰もが安心して快適に歩けるようにするための整備や取組	<p>①高齢者にとってバリアフリーな都心部に（体の不自由な人やお子さん連れにも）。</p> <p>②高齢者を考えたまちづくりが大切。地下空間を活用しやすいよう、エレベーターやサインを工夫するなど、高齢者の移動しやすさに配慮する。</p> <p>③高齢者、障がい者をもっと都心にアクセスしやすく、迷わずに安心して歩ける都心に（やさしい案内表示の見直し、停車スポット整備、観光客にも効果がある）。</p> <p>④歩車分離の横断歩道を増やすなど、歩行者の安全性を高め、都心の魅力アップにつなげる。</p> <p>⑤都心にふさわしいマナーのある自転車利用で、安心して歩けるまちに（啓発活動、自転車専用道路（駅前通り）の整備、駐輪場整備）。</p> <p>⑥東豊線への連絡通路が長く不便なため、動く歩道にする。</p>	<p>本市のバリアフリーについては、「新・札幌市バリアフリー基本構想」に基づき、道路管理者や交通管理者（警察）、JRや地下鉄などの交通事業者等が、相互に連携しながら取り組むこととしています。</p> <p>今後も引き続き、いただきましたご意見を参考に、誰もが安全かつ安心して移動できる環境づくりを目指して、歩道や信号機、駅施設等のバリアフリー化を進める予定です。</p> <p>「札幌市自転車利用総合計画」に基づき、歩行者である人を優先した自転車利用環境の改善を図るため、自転車走行空間の明確化、駐輪場の整備、ルールやマナーの周知啓発を進めているところであり、今後も引き続きこれらの取組を継続します。</p> <p>東豊線の動く歩道の設置については、床面の改修が必要であり、工事期間中は歩行動線としている通路に一定の規制が掛かることや、幅員の狭い通路は地下通路自体の拡幅工事が必要となります。また、下の階にホームがある等の構造上の問題から設置が困難な箇所もあります。</p> <p>今後、大規模改修工事等実施時は、まちづくりの観点も含め、動く歩道の設置の可否や必要性等について、検討させていただきます。</p>
2	○都心の回遊性を高めるための交通環境の充実	<p>①観光客や市民が都心を回遊しやすくするため、安く、便利に使える交通環境の整備を進める（安価な循環バス、路面電車の活用や延伸、観光バスの停車場設置など）。</p> <p>②地下通路の延伸、市電の延伸、循環バスの路線増など、都心の回遊性を高めたい。</p> <p>③都心へのアクセスを便利に安く。駐車、駐輪スペースの拡大も。都心内のアクセスを便利に（駐輪場）。</p>	<p>現在、都心では西2丁目の地下歩道及び駐輪場の整備の検討や路面電車のループ化整備等を行っています。今後も引き続きいただいたご意見や見直しを行う都心まちづくり計画に基づき、都心の回遊性を高める取組を進めてまいります。</p>
3	○歴史的建造物の活用と魅力向上のための取組	<p>①新しいものをつくるというより、歴史的なものを残し、つなぎ、時間を経ると価値が出てくる都心に（時計台を生かす。かでの2.7のアイヌ歴史館や清華亭も）。札幌には大きな博物館がないが、ハコモノをつくるのではなく、都心を回遊して歴史を感じられるように。</p> <p>②まちの歴史を伝えるデザイン、建造物をうけつぐ。今ある魅力もPRしていく。</p> <p>③歴史的建造物や観光スポットで良い写真が撮れるように、民間のビルなどに働きかけて、写真撮影ポイントを増やす（都心のガッカリポイントをなくする）。</p> <p>④時計台について、もっと緑豊かな場所への移転を検討できないか（北大構内など）。</p>	<p>市所有の文化財施設について、計画的な保存修理と積極的な活用整備を実施してまいります。また、現在作成中である「（仮称）札幌博物館基本計画」において、博物館の設置と併せて様々な関係機関との連携を強化することで、博物館活動をまち全体へと広げていく取組について検討しているところです。</p> <p>市所有の文化財施設について、適切に保存管理していくとともに、その魅力について更にPRしていくべく、その方法等について検討してまいります。</p> <p>時計台につきましては、周辺民間ビルに撮影スポットを設けるなどしておりますが、更なる充実を図るべく、今後引き続き検討してまいります。</p> <p>なお、時計台の移転につきましては、これまで何度も市民のみなさまとともに議論してきたところではありますが、現在地が札幌農学校の跡地であり、明治39年から現在に至るまで現地で保存されてきたことに史跡的価値があるとの観点から、現在地において保存することが適切であると考えております。</p>
4	○文化機能の充実	<p>①歌舞伎、能、雅楽など、多世代が文化を楽しめる場を整備する（条例を見直し、夜11時ごろまでイベントができるようになると良い）。</p> <p>②都心で利用できる図書館機能を充実して、都心の魅力をアップする（市民交流複合施設に入る図書館は中央図書館並みの規模がほしい）。</p>	<p>札幌市教育文化会館において、平成22年度に改修した能舞台等を活用した能楽の振興事業を行うとともに、毎年、歌舞伎や人形浄瑠璃など、伝統文化の舞台芸術を主催事業として実施しております。今後も、さらに様々な世代の方々が多様な文化を楽しめる場となるよう努めてまいります。</p> <p>また、開館時間につきましては、原則21時までとしておりますが、ホール施設に限り、さらに延長して使用可能となっており、ご利用の方々の希望に沿えるよう、運用により対応しております。</p> <p>都心にふさわしい図書館については、都心に集うたくさんの市民の皆様にご利用いただけるよう、仕事やくらしに役立つ情報の提供や札幌・北海道の魅力を発信を行い、また、多彩な閲覧席を整備することにより、一定の面積でも、都心にふさわしい知的空間を創出し、施設内の他の機能とともに、都心の魅力アップに貢献してまいります。</p>

No.	市民意見の分類	個別意見	市の今後の取組の考え方
5	○公園や広場の特色づくりと、魅力をPRする取組	<p>①広場や拠点は、その場所ごとの特色づくりを。人が集えて、音楽や展示などアマチュアの市民も小発表ができるような空間活用になるとよい。</p> <p>②魅力的なスポットを増やし、人が行き交うようにする（駅前通りの地上部を歩いて楽しめるにぎわいのある通りにする、大通公園を使いやすく改善する、子どもが水を楽しめる創成川公園にする、狸小路の西側を活性化するなど）。</p> <p>③創成川公園をはじめ、新しい資源をもっとPRしよう（都心の中で水辺に親しめる緑がある、といったウリが市民に伝わっていないので）。</p>	<p>札幌駅前通地下広場、北3条広場や創成川公園の狸二条広場では、それぞれ施設管理者の利用承認を受けることで、市民の皆様が音楽や展示といった催しを行うことが可能となっています。これらの施設では、地域関係者や商業者、地権者等により設立された「まちづくり会社」が施設の効用や地域の価値を高める取組を行っており、都心のにぎわい創出に貢献しています。これらの施設を含め、今後都心において整備される施設についても、多様な活用がなされるような制度をはじめ、利用方法や施設の特色を生かした取組・PRについて、検討を進めてまいります。</p>
6	○案内標示など、情報発信の充実	<p>①その日のイベントや施設情報が一目で分かり、情報が更新できるような、観光客に親切で分かりやすい案内看板を札幌駅に設ける。</p> <p>②都心での災害時の避難情報や、日頃の歩行者向けの情報などの発信を充実させる。</p>	<p>これまでも、国内外からの観光客の快適な市内周遊を促進するために、市内各地において観光案内板の設置を進めてきたほか、札幌駅などにおいて観光案内所を運営し、様々な観光情報やイベント情報を発信してきました。</p> <p>今後も観光客の満足度を更に高めていくために、これらの情報発信機能の充実に向けた取組を検討してまいりたいと考えております。</p> <p>なお、大通駅では、大通情報ステーション（地下鉄南北線大通駅コンコース横（出口5横））において、市内の文化・観光・交通・イベントに係る情報や都心部のショッピング情報を集約し、市民・観光客に案内しており、デジタルサイネージにその日開催するイベント情報を表示しております。</p> <p>都心での災害時の情報提供については、大規模災害時の帰宅困難者対策で重点的に推進すべき対策の1つと認識しており、今後「札幌市都心地域帰宅困難者等対策協議会」（平成26年10月設置）において検討いたします。</p>
7	○拠点をつなぐ休憩空間づくり	<p>・都心の拠点をつなぐ、小さな休憩できる空間があると良い（1人でも気楽に休めたり、オフィスに勤める人は弁当が食べられたり、リーズナブルな食とも連動している）。</p>	<p>大通公園、創成川公園、北3条広場といった屋外施設では、ベンチを設置しており、札幌駅前通地下広場や2月にオープンした大通交流拠点地下広場では、イス・テーブルを設置し、休憩や待ち合わせ等に利用していただいております。今後は、これらの施設をはじめとする公共空間において休憩設備の周知や拡充について検討するとともに、新たに整備される施設においても、気軽に休憩ができるような空間づくりに努めてまいります。</p>
8	○イベントの開催支援	<p>・企業や住民主体のイベントを開催しやすくする（広場や道路などの空間を利用しやすく、市でも広報の支援を）。</p>	<p>札幌駅前通地下広場や北3条広場は、さまざまな活用を可能とするために、「広場条例」を制定し、利用時間や方法等を定めており、これまで市民の皆様の活動の発表やアート・音楽等の催し、企業プロモーション等多様な活用がなされています。</p> <p>今後も広場や道路等の公共空間において、多様な活用が可能となるような制度や利用方法の効果的な周知について、検討を進めてまいります。</p>
9	○都心全体に賑わいを広げる	<p>・駅前通だけに都心のにぎわいが集中しないよう、まちの機能を東側の地区にも広げる。</p>	<p>駅前通は札幌都心のメインストリートとして、重要な骨格軸のひとつですが、他の拠点や都市軸と合せて都心全体が活性化するように効果的な取組を進めてまいります。</p> <p>とりわけ創成東地区は近年大幅な人口増加や、活発な開発動向が見られる地区であり、居住を中心に、機能集積や回遊性の向上を図り、都心ならではの魅力を徒歩圏で体感できる利便性の高い地区づくりを進めてまいります。</p>
10	○郊外との連携	<p>・財政面を含め、郊外のことも忘れないで（連携含め）。</p>	<p>郊外では、生活利便機能の確保のため、幹線道路沿道において小規模店舗などを立地可能としているほか、地域の特性に応じた交通体系の確保に向けた取り組みを進めております。</p>